

大学及び附属学校園との連携

研究部 玉 谷 直 子

附属のあり方部会では、各校における様々な取り組みを立ち上げる段階で直面した課題、それを乗り越えるための試行錯誤等が報告される。今回の発表では、国立大学法人化以降、本校が実践してきた大学及び附属学校園との連携研究が、近年の国立大学への社会的な要求が変化するなかでどのように変化しているのかを報告した。特に平成31年2月に附属学校園教材・論文データベースを開設するまでの経緯やその成果、課題について共有を図った。

お茶の水女子大学の附属学校園の特徴の一つが、同一キャンパスに大学、附属高等学校、附属中学校、附属小学校、附属幼稚園、ナーサリー、文京区立のこども園が併設されている点である。平成16年の国立大学法人化以降、この環境を生かした大学及び附属学校園の連携研究が盛んに行われてきた。本校は、大学とは国立大学法人化をきっかけに高大接続の制度化を進めてきた。平成16年度には「附属高校生向け公開授業」が始まり、平成17年度からは大学と高校が協力して開発した「教養基礎」科目を国語、数学、英語の各教科に置き、平成20年度入試からは高大連携特別入試を実施してきた。平成31年度入学生からは「教養基礎」は国語、数学、英語の3教科ではなく、総合的な探究の時間に置く「新教養基礎」に改組し、本学教授陣が様々な分野についてキャリアガイダンスとともに「問いを立てること」に関する講義をする形とした。

附属学校園とは、平成16年度より、各附属学校園の教諭が所属するテーマ別部会を立ち上げ、月に1回「連携研究の日」を設けて、テーマ別連携研究を実施してきた。平成22～28年度には、お茶の水女子大学の文部科学省特別経費事業「附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究」の中に位置づけ、大学教員も係わる中で連携研究を充実させた。しかし近年、国立大学附属学校には、研究成果の発信、社会への実装が強く求められるようになった。本学でも連携研究を深化させること以上に、その成果を発信し、社会に実装する方法を模索する動きが強まり、執行部のリーダーシップの下、本学ホームページに、平成29年度に附属学校園の連携研究の各テーマ別部会の研究成果を発信するページ (<http://www-p.fz.ocha.ac.jp/renkei/>) を、平成30年度には「附属学校園教材・論文データベース」 (<https://kyozai-db.fz.ocha.ac.jp/>) を設けた。データベースについては、文部科学省からは一定の評価を得たようだが、より活用しやすいコンテンツをどのように増やすか、活用してもらった成果をどのように確認するか等の課題も残されている。他校にはまだない取り組みであり、興味を持ってもらえた一方、運営にともなう困難の解決が難しいのではないかという指摘もあった。今後の運営の参考としたい。

